



文教の里：多久「学校に行くなら多久 教育するなら多久」

■問い合わせ

# 平成25年度開校「小中一貫校のスタート」に向けた取り組み

教育委員会 学校教育課  
☎75-2227

## 小中一貫校の教育の特色②

「学力向上」「心の教育」「多久学」「交流活動」「ICT教育」「国際化」の6つの柱をたて、教育を実践しています。その状況について前月号に引き続き紹介します。今回は「学力向上」、「交流活動」、そして「心の教育」についてです。

### 学力向上

多久市教育委員会は、市内全学校で「学力向上・小中連携教育」に力を入れて、毎年中学校区ごとに研究発表会を開催しています。

11月の研究発表会の日を「多久市教育の日」と定め、市内全学校で授業参観等を行い、保護者・地域のみなさんに広く公開しています。

「多久市教育の日」とは…

子どもたちの教育を考え、実践する日として、市内全小中学校で日曜日を全校登校日とし、授業参観等の学校公開を行っているものです。



▲授業参観の様子

### 交流活動

小中一貫に伴い、前期(1~4年)、中期(5・6年)、後期(8・9年)の3段階の区割りを生かした交流活動を工夫・実践します。

本年度は特に、合同での授業や体験活動、宿泊訓練、1日をすべて同じ教室で学習・生活するなどの教育実践をしています。

また、多久高校とも交流活動を推進し、小学校5・6年生が福祉・工業・パソコン学習等に挑戦しています。さらに、幼稚園・保育園の協力の中で、小学校低学年との「幼保小連携活動」を行っています。

来年度からは小中一貫教育スタートで、小学校1年生へのスムーズな入学に向け、幼保小連携を更に推進していくこととなります。



▲幼保小連携の体験活動

### 心の教育

▶東部小  
あいさつ運動



市内全学校では、①「トイレ磨きは心磨き」を合い言葉とした『トイレ掃除活動』、②命の連続性・有限性・偶然性の視点から『命の授業』を実践、③家庭における読書活動・家族の会話推進としての『家読(うちどく)』、④思いやりの心を育む「論語カルタ」実践、⑤道徳授業を保護者や地域のみなさんに公開する「ふれあい道徳授業」等を柱に取り組んでいます。知・徳・体の調和のとれた子どもたちの育成を目指しています。

今日の学校教育においては、これまで以上に「徳(心の教育)」が重要な教育の視点となっています。

## 多久学のすすめ 名所・自然編



発行：多久市多久学編集委員会編

『多久学のすすめ』は多久の偉人や歴史、風土、産業、農産物や特産品などそれぞれ人物編、産業編、生活編、名所・自然編と小冊子にまとめたものです。今回は、名所・自然編について紹介します。

名所・自然編では、文教の里多久と呼ばれる所以となった創建300年以上の歴史を持つ多久聖廟の装飾や天井に描かれている「蟠龍はんりゅう」の伝説を紹介。志田林三郎など多くの偉人を輩出し、身分を問わず学問を志す者すべてを受け入れた「東原とうげん庠舎」、西多久町のくど造り民家「森家」、国の重要文化財に指定されている「川打家」、市民に親しまれている「西溪公園」に加えて、「天山」など自然環境についても学べる内容となっています。

1月の定例教育委員会は  
11日(金)  
時間 9時30分  
場所 市役所2階 第2委員会室  
■問い合わせ  
教育委員会 教育総務課 ☎75-3450  
(傍聴は自由です)

東部小育友会文部科学大臣表彰受賞  
11月22日、優秀な活動実績をあげているPTAを表彰する文部科学大臣表彰を東部小育友会(会長 榊島永二郎)が受賞しました。  
東部小育友会では父親部を中心として、子どもたちと一緒に下校しながら危険箇所を点検したり、子ども110番の駆け込み訓練などを実施したりしています。また、育友会・小学生・中学生・小中学校教師の5者で、年3回小中連携あいさつ運動を、東部小校門で1週間行っています。このように地域と連携した活発な活動が評価され、今回の受賞となりました。  
榊島会長は、「有難い賞です。会員のみなさんの協力と地域に支えられて活動ができています。これまでの成果だと思っています」と喜びを語られました。  
岩橋進校長は、「育友会の活動がすばらしい。安全、防犯、除草等、幅広く学校を支えていただいています」と活動に感謝されています。  
▶表彰状を持つ  
榊島会長(左)岩橋校長(右)

